

2001年出土の木簡



には中世初期の大製鉄遺跡がある。国道七号線琴丘能代道路建設事業に伴い、一二三〇〇m<sup>2</sup>を調査した。

- |               |                 |           |                 |              |  |                |
|---------------|-----------------|-----------|-----------------|--------------|--|----------------|
| 7             | 6               | 5         | 4               | 3            | 2                                      | 1              |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 遺跡の年代           | 調査の種類     | 調査担当者           | 発掘機関         | 調査期間                                   | 所在地            |
| 遺跡の年代         | 縄文時代・平安時代・中世・近世 | 村落・墓域・生産地 | 杉渕 馨・利部 修・宇田川浩一 | 秋田県埋蔵文化財センター | 一九九八年(平成11) 一二月、一九九九年五月<br>一〇月、二〇〇〇年四月 | 秋田県山本郡琴丘町鹿渡字若台 |

秋田・盤若台遺跡

三世紀前半の方形周溝・火葬墓・井戸・鍛冶炉などである。遺物は繩文時代中期末の土器、平安時代の須恵器・土師器・製鉄関連遺物中世の中国・国産陶磁器、木器類などがある。

8 木簡の釈文・内容

馬の中手骨が出土した。龍泉窯系の青磁碗が一点出土した。  
木簡は、大量に廃棄された箸や板材と共に出土した。井戸の廃絶  
は、出土した青磁碗から一三世紀前半で、木簡も同時期と考る。

木簡は、中世の井戸SE九三三から二点出土した。井戸の掘形は長径二・七m短径一・九m深さ七・六mである。〇・六mほどを擂鉢状に、その後垂直に掘り込む。底面に曲物がすえられていた。底面から二mまでは木器・木材が大量に廃棄され、上から三・二mで馬の中手骨が出土した。龍泉窯系の青磁碗が一点出土した。

不口ハニホヘトチ

ノルマニ

1

(1)

(2)



(120) × (24) × 6 081

九州歴史資料館編集

### 『大宰府政庁跡』の刊行

- 9  
(1)は折敷の転用。下辺を刃物で階段状にカットする。  
(2)は上端と右側面は原形をとどめ、下端と左側面は折れている。  
関係文献  
秋田県教育委員会 『盤若台遺跡』(秋田県文化財調査報告書第三一  
九集、二〇〇一年)  
(宇田川浩二)



(1)



(2)

大宰府は、「大君の遠の朝廷」と謳われる、古代律令制下の外交と交易、西海道諸国支配の重要な拠点である。その中枢部で、菅原道真が「都府樓」と詠んだ政庁の発掘調査報告書が刊行された。

大宰府の発掘調査は一九六八年より永年にわたり、その成果は膨大である。本書は、そうした発掘成果と、最新の成果をあわせて集大成したものである。

遺構や出土遺物の豊富な写真を駆使している。また木簡の再読も行っている。A4判・上製・函入・外箱付・七二二頁(原色図絵八頁・折込九丁・付図一丁)。

なお、発売は吉川弘文館から。価格は一八〇〇〇円(税別)。